



武家嚴制録

73
6534
8





武家嚴制錄 卷之六



- 一 執上病甚并音物者請解 己八月
- 一 沙鉢人并持持 任後 之錄二年十月
- 一 進和產因 己九月六日
- 一 吳後產因 己十月
- 一 乘物 己十月
- 一 資計 己十月
- 一 乾老 己十月
- 一 火事 己十月
- 一 捨子 己十月

100
8

門 7 3
號 6534
卷 8



昭和十四年
一月十九日



武家嚴制錄卷之六

雜部

一 執之箱蓋并を物處に送附

先

一 執之箱蓋上格板を月小仕行末もて用く
みりきも格板を月小仕行末もて用く

一 執之箱蓋を箱蓋に格板を月小仕行末もて用く

一 筆を入る者ぬり筆を月小仕行末もて用く

一 執之箱蓋を月小仕行末もて用く

一 執之箱蓋を月小仕行末もて用く

箱了月事

一 常々花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 常々花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 唯今もその花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

箱了月事

一 常々花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 常々花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 唯今もその花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

一 花のうらひを物とあはしむるの甚き月事

法合しる浦

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
ても用ひ所よと早下款と清徳也并知し入る
松枝のみ相入りも之用ひは保しお尋ね相
おと雑木も用ひ中庄保持て仕立し又
由分れりあふくふふ子即し外也款と若集
一 通用の中庄保本年三月分り松枝と松
て仕立

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保

一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保
一 款と若者との下款と相入り名松枝と中庄保

一 執事 彦彦松林 彦彦松林

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

彦彦松林

彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

己九月廿六

一 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林 彦彦松林

己十月日

一 去年身涉弱

先

去年當年を以てるの万計命迄年々を以て
の故に由り 任那系に在るを以て國を以て年々殺
すべしと云ふ事を知りて之を以て

己十月日

一 火事甚敷く後何を書身涉加

一年六月大同身涉火消し後勤は法大を以て
るを以て之を以て火消し後勤は法大を以て
何れと云

一 羽織襟の白餅に完身お下は

一 紋不之不之付不若

之不不之も有束紋の二有不之付不
若の角の丸の内以て身涉は内を以て

一 巾綿綿負草深の羽織に若

くくくくく

一 羽織うしろ山道二布付の何

あし筋もても無用

一 門水玉筋小紋何

くくくくく

一 三人目拭筋何

くくくくく

右通判人との交渉

用人をば尋ぐ元

一 邸中早より申さむいひて有るは

わんもなききりし物早の如く同きを

通て死にわすれしを折友草とすこし物通

ふふ若く同底もふ若く

一 邸中、致不ぬ申す由

一 吹返して申す事

は

一 捨子いし事

是

一 捨子いし事、急創替の音言ぬ事

宵之由名を公人と其主人、沙科名、清代、友、私、願

其材、各々、わ、人、組、町、方、を、不、く、存、之、わ、人、組、

主、亦、下、戸、を、捨、難、音、を、不、く、不、く、て、音、言、下、信、

廿、捨、子、信、之、の、名、度、下、お、曲、事、之、

年十月日

文禄三年

武家藏割録卷之七

目錄

- 一 國々清軍不々光附勤每々元
- 一 國々女々歌出々元
- 一 女々歌一書裁々元
- 一 同引
- 一 徳家重判女々歌文案
- 一 留書居文案
- 一 町中女々歌文案
- 一 女々歌々案口在

寛文元年八月終
貞享三年七月十二日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 武家藏割録 and 目錄]

氏家嚴制録卷三十七

算不女之部

一 國之清算不之先 功勤毒元

一 相取若根 小田原城之 大久保屋後守

一 巨取根府川 同 人

一 遠取之切 尾取山家入 山村基三席

一 信取福徳

一 信取雄冰

一 同 横川

一 敬取軍川

一 同 李之橋

一 早取小佛

清代友

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 下総関宿

御代友

一 総良房川渡

一 上江新郷川俣

悪城之

阿波花野寺

一 重町雲戸

忠代友

伊奈寺丸寺

一 猿ヶ京

伊奈寺丸寺

一 大笹

是志新算上節合伝忍進之

一 女子歌之流

一 江戸

御宿与居流

一 勢呂

桑名城之

松平我申寺

一 志呂

吉田折津寺

一 西之河

忌崎城之

水地七馬ノ寺

一 东三河

一 伝呂

一 後府

水地集之宝曆六年
松平丹波

一 丹波

同不町寺行

一 色江

一 山城

一 和泉

一 折津河内

大坂町寺行

一 伏見

同不町寺行

一 女子歌之書載之

傳令

女子下河内之月

一 系物

何挺

一 福尾

是志能人の後室又之姉妹よの髪をり
〜をいふ

一 尾

是ハ不通之女子髪利ををいふ

一 比丘尼

是ハ伊世上人晋光寺なるの女子みを
能人の後室なるの百位より即ハ能
比丘尼ホあり

一 髪切

是ハ髪の長短よりすか一切〜又
短く切〜も 何處も髪切也

一 小女

是も尚也より十五六も振袖の内と
小女〜

一 乱心之女

一 搦之困人

但〜是ハ男女共也

一 死骸

但〜是ハ男女共也

右〜通之形も書我之此印志於冢不不改
但欠落ホ〜もの有之所ハ奇み方そ老〜年以
振舞書池之〜を〜る迄〜改〜改〜改
日分〜之車月晦日迄〜之〜從其日限及正引
不〜お通〜之

寛永元年八月吉日 集人

冢不

人改冢不

長門

右子

貞化

一同

罪不重刑一書載是

傳令

女上下何人之内

一系物

何挺

一禪尼

是志能人の後室又々姉妹なるの髪
そり〜とよふ

一尾

是志音無〜女〜髪判〜とよふ

一比豆尼

是志伊勢上人音光とよふなるの女子各
能人の石位より所能世監尼とよふ

一髪切

是志髪〜長髪より〜す〜少切〜とよふ
申とよふみ出来お〜と扱とよふみ〜若何も

一少女

髪切之短ぬけ髪之揃い〜の髪切とよふ
無〜の但〜是も髪を切〜とねん〜
髪切とよふ

是志あまがかり神の内ハ少女〜とよふ
然振袖〜許不審〜と有〜と改〜但小
女〜内尾〜ふら髪切扱志不及改〜
男女〜とよふ

一自負

一乱心

一困人

一首

一死骸

同
同
同
同

右〜通自刑〜書載不審〜神於有〜とよふ

政下... 亦不及... 但... 亦有...
... 日限... 女...
... 通...

貞享三年庚七月十二

能守判
于波守判
出羽守判
内苑乞判

一 徳家連判女自取沈文案

女上下二人... 和... 仍...
... 仍...
... 仍...

年号月日

苗代官 判

苗代官 後

日

私云右宛... 准...

發文
三

私云右宛... 准...

伊番宗居元月書方一持宗河原秋出之月書

方と先書一

一私之出在由之元月書方一持宗河原秋出之月書
在之其家の苗書居宗居元月書方一持宗河原秋出之月書
女上中何人之内髪切何人小女何人宗持何挺後
江戸何由何不近其書之と若根之切五御屋不無
相遠其由之根由之形之と何之元月書方一持宗河原秋出之月書
と中志之姉妹女中女之元月書方一持宗河原秋出之月書
中何之と私無出之元月書方一持宗河原秋出之月書
私元月書方一持宗河原秋出之月書

年号月日

苗書居 苗氏海名

市判

宛不取

右前在取り事状業

一筆致書之由然之我宗家何来と申志之姉妹女
と度江戸方何由何不近其書之と苗書居と元月書
之通若根之切御宗不其書方一持宗河原秋出之月書
宛不女共之有之其書方一持宗河原秋出之月書

年号月日

苗氏官古判

宛不取

同以

同以

同以

一之書

私之元月書方一持宗河原秋出之月書

一町中女を欺る文案

此女三ノ人後江戸兵衛國何郡何村遊乞を以て雅水
小仏沙羅不其遊乞の事いふに女は侍り
町を丁自家に於て居る所八ノ中名い何を以て
此女身其来出入書来侍り人といふ事及中上此
連判之志其お中決て仁は為後法住居といふ
仍名件

年号月日

人主

お人姓

名主

町年寄之人

私云云し此又町奉行宛書判出

一女子欺之案

女之十何人内高物を換後江戸兵衛由桂田遊
將水園不其遊乞といふに雅水家来何集り
之由雅水及び身お人といふ

年号月日

雅水

一ノ下

一ノ下

一ノ下

雅水人改在申

女之十指之人内福元といふ人其切之小女といふ高物を換
後江戸上其園不其遊乞といふに雅水家来何集り
雅水内其高物及中女之由雅水及び身お人といふ

年号月日

一 下判

一 下判

一 下判

大戸人改元申

礼心女主人宗物を擬て江戸常陸國河和道金町
松戸屋敷之を相違うる通に誰後家来一妹由誰後
乃村書込の心

年号月日

一 下

一 下

一 下

金町 松戸 人改元申

女何人後江戸越後國言國道碓氷屋敷之相違
ていぬい中町二丁目平井源六娘申改元申
多良屋市馬小村友江等村屋敷之宗物
村越長門与度渡辺大瑞吉度改元申

年号月日

一 下

一 下

一 下

一 下

碓氷

人改元申

一 丈夫父母 忌二十日 服九十日

一 祖父母 忌二十日 服百廿日

母方 忌二十日 服九十日

一 曾祖父母 忌二十日 服九十日

高祖父母 忌二十日 服二十日

一 伯父叔父 忌二十日 服九十日

母方 忌二十日 服二十日

一 兄弟姊妹 忌二十日 服九十日

別振多ト云臣服忌列十二

一 姑 忌二十日 服九十日

母方 忌二十日 服二十日

一 異父兄弟姊妹 忌二十日 服二十日

一 嫡孫 忌二十日 服三十日

娘子孫 忌二十日 服七日

女子小兒初生レテモ末孫ニ准ス

一 末孫 忌二十日 服七日

一 嫡孫兼祖 嫡子ニ同シ

一 從父兄弟 忌二十日 服七日

父ノ姉妹ノ子兼母方忌二十日 服七日

一 甥姪 忌二十日 服七日

姉妹ノ子忌二十日 服七日

一 聞忌ノ事

奉命ニ於テ死去年月ヲ終テ告事候ハ父母
ノ付ルヨリ忌二十日 服十二月内 同月ヲ

カソノ不諭ハ今年三月ニ至スル八月年二月
中ハ急報ノ日カス可忌ノ股忌ノカスニテ若生
時々急報ニシテ才減忌ヲ法ニ

一 重ハ股ノ事

父ノ股未明中ニ又母ノ股有之既ハ二年ノ股ヲ
法父ノ股三月ニテ後母ノ股有之ハ母ノ去ノ
月ヨリ十二月迄股有之股ノ内カロキ親ルイノ
股有之ハ股ヲ不改及諭ハ五月ノ迄キ股ノ
日カス日十日ニテ母ノ股有之節ハ迄キ
股ノ日救ニテ後右ノ股キ股ヲニテ母ノ
日救ニテキ股ノ中ノ討フヘニ股キ股ノ内キ
股有之ハ其時付日ノ股ヲ改メ其救ニ忌

一 七歳未滿ノ童子ハ自化共ニ無股忌但老忌

父母ハ 七日
外ノ親ルイハ沙ニ母方并沙忌及老忌

穢ノ事

- 一 產穢 父七日 母二十七日
- 一 淫穢 父三日 母二十三日
- 一 血荒 行水ニ才
- 一 死穢 同日
- 一 踏合 同日

貞享元年子二月廿八日

一 服忌令 追加

- 一 父死去、後母他嫁して死す時定式、服忌之禮
- 一 養父死去、後母他方に居るに他嫁せずして
- 一 葬持お増し、未養母、服忌を受く
- 一 養父死去、後養母他嫁して死す時、服忌を受く
- 一 養父、母先きに死去、一夜に對面するに、嫡母此に
- 一 共親類、少少服忌を受く
- 一 嫡母死去、後身振、出生の子孫、母養育に繼
- 一 之、服忌可受く
- 一 父亡、縁切り母亡、喻、他亡、母父死去、以後、一
- 一 死在、母、離別、母、後忌可受
- 一 離別、母、親類、少少減、服忌、受く

一 離別、祖母、半減、服忌可受

一 繼父母、親、八服忌無之

一 父母亡、移り、伯叔、父姑、半減、服忌、受く

一 異父兄弟、姉妹、親類、八服忌、半減、服忌、受

一 母方、親類、父不通、八服忌、列、十二、養母

一 親類、七、同、前、十

一 嫡子、お弟、以後、次男、三、七、末子、七、お持、上、定

一 時、七、後、忌、嫡子、次、二、次男、三、お持、下、定

一 定、時、七、末子、三、定

一 義経、子、七、服忌、列、十二、嫡子、三、下、七、在、未

一 子、三、次、三、七、親類、同、此、母、三、於、八、定、式

一 服忌可受

- 一 家紋法恩深き養子ハ方知死事ト目前
- 一 他家之遺法お嬢は養子ハ宮子父ノ方知トモ受たり宮方の親親お嬢もハ性定る定式ト通服忌可受
- 一 他家ノ養子あるとの宮方の嫡母も法母も養育せうしりく養母す城の服忌ト受く他養育なくはりて服忌なく
- 一 女子婚儀以て養子ハ成人舞とよりお嬢お嬢の時の養方の親親お嬢宮の如しお母も服忌可受婚儀ハ養母ハお嬢ハ宮の親親お嬢お母に定式の服忌ト受く宮方の親親ハ養父母に定式の服忌ト受く無印

- 一 伯叔父姑兄弟姉妹ハ半減の服忌可受く此ハ養方の親親服忌なく養父母伯叔父姑兄弟姉妹の方よりハ半減ノ服忌ナリ
- 一 婚儀ハお嬢死をりお方法定るるハ半減お母も服忌ナリ
- 一 七歳未滿ハ小兒モ親親お母ハ前ハ定式の服忌の年月日よりお母もを意す
- 一 父の妾ハ服忌なく但夫妻ハ淋る時ハ法母服忌ト受く
- 一 妾ハ服忌なく但子出生ハ淋るを意す
- 一 養子タルとの宮方の親親他家ハ養育者ハ服忌なく

- 一 同姓の元も異姓の元もその人々を扱ふつぎ有るハ
 元も其方の股忌を受く
- 一 縁親の名氏と扱ふ中より方知配當無きはり
 中姓の方ハ親親定式の通扱忌を受く
- 一 父母妻子兄弟弟妹来り股忌有るは氏に成る
 股忌をらすはり行水は弟妹禊忌
- 一 居るべきの内死人有るは百の禊忌は家
 といふありし禊忌
- 一 家より方子死人有るはも別扱より信宅の
 者より禊忌は信宅ノ者死人有るは共別扱
 といふありし禊忌は但同扱より扱は信宅ノ
 者氏に一日ノ禊忌ナリ

- 一 忌中の家成り死人の序成り或は或自害成り
 二病死の者成り余り 治合し禊忌
 - 一 形禊有之生しは方子為生流形禊無き方子
 歳月をす為血荒
 - 一 才減の日カスハ二十日の忌ハ十六日之解ハ此之
 二日の忌ハ二日あり 七日ノ忌ハ此之
- 貞享六年 戊辰 八月十日

武家叢制源 卷二十九

目錄

雜部

- 一 河内其家江沙案目 享安二年九月廿七日
- 一 同河内知事 同年 十月九日
- 一 家繼云西九沙移流前案目 同三年九月十日
- 一 河内知事 同日
- 一 附河内知事
- 一 同河内成月法江江為法江沙案目 同日
- 一 同河内收人江案目
- 一 同時右小名官收人江案目 同日
- 一 同出家流沙移流前案目 同日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '河内', '知事', and '案目']

誦法を修するの
新見七集の
て世に在るもの

私去徳杉君所奉目太負の
同年四月日

物世を流るもの
宝号源七集の
本居有信の

一 同法下知事

一 御書不流江原の事 柳系三葉山科在る漢系
奉奉の付地島系地四一 一夜の古勤事

告懸し養中中一 養中知とともき 不届の族
河に用候りて下しを懸てし 柳系六日人
申事し 一方流傍在候と新見七集に在る事
一 方有候事

一 火の用公の事

一 火の用公の事 一日夜にお勤く 流を流す時
一 夜中しし三交りて 大に用公に下り 付
凡吹の時を 汗油ひて 事
一 大とて 柳系 事
一 古定候 柳系 事
一 山系 柳系 事

一所の生れ小食の人の子歎かして上下を

一切をすべし次言に道とていふ形者をも

生るべしと云事

役人おれぬの事案一第くすあて四人の

面く事不より勇(男)一切をすす排除以下の

時を毒くはる人活毒を人排除の者とて事下

付て事

一玉師の系御中九事案と事一五の内五代を

七層の厄業五後を玉師の時にて事あり

附所人の後有平足然事案の近年事のは子系

け之とて用出才事案一第くすあての御中

心算上り時三人五後の一五事

一をよく女一切停止し

一恐くて事あり山崩し事案は世中或人の内中

一其四人死す事あり

右一書事世名よの何れ事案

右一書事世名よの何れ事案

一家能く物九沖核能く時事案

案一

一太納公事案と云へる事案は事案

少律事

一 湯生系の宗の少及上流承中のみつゝと云ふ事
若くは道々或る所停止するに宗共なるし候とも
一切仕へらるる事

附取らるるおきて法事等の宗の事合若くは
義の一件仕へらるる事

右の条一二相違き若くは宗族若くは
信守の宗不考科との依代違ひ候

天保三年九月十八日 奉行

一 附法例礼法下知状

一 附内々義の儀事なるは宗の儀に在り候

一 湯生系

一 高生山所住の儀は時方と云ふ事候

一 成次自然中候事候と云ふ事候
礼法例礼法と右の条と加ふ

一 附成法例礼法下知状

覺

一 湯生系 天保三年始の礼に云ふ事候

一 公方御法例禮法 入所の時分 附成候事

一 二月三日 湯生系 宗の礼法以後 附成候事

一 女系白儀と云ふ事候 天保三年以後 附成候事

一 新十女... 河内丸... 河内丸...
 一 常々... 河内丸... 河内丸...
 一 出... 河内丸... 河内丸...
 一 之... 河内丸... 河内丸...
 一 附町中... 河内丸... 河内丸...
 一 之... 河内丸... 河内丸...
 一 大... 河内丸... 河内丸...
 一 河... 河内丸... 河内丸...

但是... 河内丸... 河内丸...
 同... 河内丸... 河内丸...
 一... 河内丸... 河内丸...
 附... 河内丸... 河内丸...
 一... 河内丸... 河内丸...

一 河内丸... 河内丸... 河内丸...
 一 河内丸... 河内丸... 河内丸...
 一 河内丸... 河内丸... 河内丸...

後下ノ歌 夫は知と有ふ曲は旅方ニ
三用は下上を兼いし一守下をわけて其人の
元曲より下より万事を待備ふる之を在在
下より待備ふ

一斗米の事と 亦利との旅在るは備時列
上上し一自然の備候を旅に利を知行年
生浪米成候をも共物米の一倍一より

一火の用公の事

一火の毒を令一り一夜を勤し一法を後討家
困弊事一多き事一屋根を以下まで入る
一改正事

一火の焼く事望下付る

一夜中より二夜よりあつた火の用公以下一り月夜
の時ふるは油のすくこと事

一風呂屋の事より 朝方竹の晩七付きたり一
一後と飯の事より一こと事

一古き燈の事より一りんをけり一を利とけり
世外と停止し

一舟の出入りより一舟なり一り一舟下共し一切を
一りすし山田中の中舟形より一割する下こと
一舟の形有る事より一舟なり一り

附夜中より自然の事より 在るは舟の
人かこと事 世に人の舟より一人の事及の

一 書不取形をいふ事

一 江戸に於て其の書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

一 江戸に於て其の書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

一 江戸に於て其の書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

一 書不取形をいふ事

十洲記序

元

一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

一 書不取形をいふ事
一 書不取形をいふ事

積貯取事... 九月十日

一 同附德大石... 津津之

一 輪津移... 津津之

一 七年始... 津津之

一 撫順二... 津津之

一 中... 津津之

一 從十... 津津之

一 於... 津津之

一 從十九... 津津之

張... 西... 為...

張... 西... 為...

一 奉... 津津之

一 津... 津津之

一 吳... 津津之

九月十日

一 同... 津津之

三... 卷

增... 寺

一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷

傳通院
良 院
南 院
文 院
以 院
培 院
醫 院
西 院
毫 院
比 院
言 院
天 院

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 束 一 卷
一 同時 兼 向 之 公 家 院 兼 涉 此 院 之 院

正 知 院
空 龜 院
如 言 院
水 若 何 院
葉 村 院
松 平 院
台 村 院

一 傳 卷
一 院 使
一 新 院 使

右 何 人
法 若 若 院
法 若 若 院

一 勒保西園寺大納言

一 院使 在鳥井中納言

一 新院使 安永宰相

一 女院使 系室宰相

六 御伊賀守
能繼 在鳥井

一 榊 在右邊
松下 在左邊

加右 在鳥井
成瀬 在鳥井

藏田 在鳥井

武家藏制錄卷中

目錄

一家綱目 清和丸 清穆院之附 涉重目

一 山崎方 涉重目

一 回形

一 涉臺 在鳥井

一 涉海人 在鳥井

一 吳坊 在鳥井

一 涉廣 在鳥井

一 涉吳 在鳥井

一 同村 在鳥井 城從者 自教 山定 之 元

武家藏制錄 卷四十

家經公清和九清移流之府清軍自部

一 御納方清軍自

定

一 御納方万車以入用流入金費之病之由以可

中分事

一 從以方以任智御軍自其極河之極以中分事

組中進樂中分事

一 想涉納之案涉番之案二人亦之也之也切路

考案之亦勤之極之也中分事

附於人之也極之也中分事

一 傳納人之天中之極之也極之也極之也

一 寺に極上寺付事

一 寺方若山ついで屋敷の用不同ありて付事

附出の用公布の見早うえに中納言一戸付之に付
屋敷に別して入るに等し付事

右条々等とおもふ事との

一 百治二年九月廿

一 同前

先定

一 寺納銀取人宛一日一夜お勤りし河津奉行着

奉行を以ててを御奉行申方松方より二人是又

一日一夜で勤る 暮屋奉行を以て二人納銀取人

一 勤仕事

附出屋敷奉行法及屋敷奉行雲物奉行新奉行法

増奉行を以て法ありて御奉行入る火の用公

衆一戸付の暮屋奉行ハ用公御奉行別法

火之用公一戸付一自然法海内が各各耐ハ

陽ありて其法ありおと早納りあり別

一 寺方若山

一 寺信不ふ及中表其の料理不も後六人し其

寺番不方由用他人を早うこのお勤るに付仕事

執務以て不可違候

附出納言御屋敷の内におしききりホ一切を御奉行

一 寺納言宛方御屋敷不も納りて食も其の御奉行人未だ

用分掃除の二例

一掃除の具御料理とて五分二寸五分上小石は
末の百りもが板まわり熱板をうかへ六尺可
勤く堅固を要す不たるといふも此種方丈配の
不と六尺掃除の為勿備事

附料理方法道具は及今迄未だ各所
尚多切の五段吹くよと云

一末の同じく居る事食之六寸は此種方丈
たりしつ共活番外一切の百り物も此
との右の左端の事とて自然御用在りて
兼ふおいては 陸内の方早建退安す
若摺の事有るとは此月日自月身合の事

此臺不取のりてと考も一注お取、七葉川に於て
此月付元とて急度一市建事

附此臺不取のりて方丈内より此は切取
て十尺上の此臺不取とて一市建事

右の事とてお考廿名も遠有、旗在りて
随科の物とて此知曲事也

万治二年九月六日

一桑坊之元抄書目

定

一御下は桑坊湯水おぼへ入る事

一御下は桑坊湯水おぼへ入る事

山内休元述中、建以信信、而之、事

一 小節勿勤、事、其、法、名、出、信、細、大、廣、多、次、
一 法、名、出、信、細、大、廣、多、次、
一 法、名、出、信、細、大、廣、多、次、

附法名出信、部、信、細、大、廣、多、次、
持、こ、う、ふ、し、う、年、由、業、名、出、信、細、大、廣、多、次、
と、ん、上、法、事、入、念、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 御、原、是、年、由、業、名、出、信、細、大、廣、多、次、
一 入、念、事、
一 子、細、事、
一 子、細、事、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、
一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

次、者、子、細、事、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 一、番、勤、信、一、列、形、悵、改、一、部、信、細、大、廣、多、次、

右、案、一、部、信、細、大、廣、多、次、

一、部、信、細、大、廣、多、次、

一 御中記の中記流... 表果性... 百連侍...
 人... 中... 奥... 醫師... 右... 紀... 百連侍...
 一 醫師... 右... 紀... 百連侍...
 一 紀... 百連侍...
 一 百連侍...

九月日

一 侍...
 一 六人...
 一 御...
 一 草履...
 一 雨天...
 一 右...



